

平成29年度  
公益財団法人つくば科学万博記念財団  
事業報告書

自 平成29年4月1日  
至 平成30年3月31日



## 目 次

はじめに	1
I. 個別の事業活動に関すること	
1. つくばエキスポセンターの運営に関する事業	1
(1) 展示	2
(2) 催事	3
(3) プラネタリウム及び3Dシアター	9
(4) ミュージアムショップ	13
(5) その他	13
2. 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進、科学技術に関する 産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の 国際交流の促進に関する事業	14
(1) 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進	14
(2) 科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関 の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進	16
3. 科学技術関係団体等に関する事業	17
4. 情報発信・広報活動	17
(1) 情報発信（情報公開）	17
(2) 広報活動	18
II. 財団運営に関する総合的な活動に関すること	
1. 代表理事・業務執行理事及び理事会・評議員会	18
(1) 理事会	18
(2) 評議員会	19
2. 監事監査	20
3. 基金の運用	20
(1) 運用収入	20
(2) 再投資	20
(3) その他	21
4. 施設・設備	21
5. 業務執行体制	22
6. その他	22

## はじめに

公益財団法人つくば科学万博記念財団（以下「財団」という。）は、財団を取り巻く科学技術環境等の変化や財政状況も転換期を迎えつつあることを念頭に「つくば科学万博記念財団中長期計画」（以下「財団中長期計画」という。）を策定した。平成 29 年度は、その初年度ということで財団の新生化と地域における存在基盤の確立に向けて、既存事業の効果と必要性を踏まえた見直しを行い、時代の流れや社会のニーズの変化に常に対応していくことを意識して事業に取り組んだ。

また、つくばエキスポセンター（以下「センター」という。）の施設全体の魅力度の向上を図るため、常設展示の構想と展示計画の策定に着手するとともに、来館者が快適に利用できるよう設備等の改善や老朽化等に対応した。

このような取り組みの蓄積が功を奏して、センターの入館者数は 191,817 人となり、平成 18 年度のプラネタリウムのリニューアルオープンとつくばエクスプレス開通の相乗効果があった年度以来、19 万人台の入館者数を記録した。

平成 29 年度の事業計画に従い実施した事業は以下のとおりである。

## I. 個別の事業活動に関すること

### 1. つくばエキスポセンターの運営に関する事業【公益 1・収益 1】

センターの運営事業は、「つくばに立地すること」「常に科学技術に触れることができる」「科学技術の本質を理解することができる」「未来の社会経済の姿を想像できる」を意識し、展示や科学技術コミュニケーション、催事、プラネタリウム等の事業を実施した。事業実施において関係機関やボランティアインストラクターの協力・連携を得ながら、センター全体で統一感をもって事業に努めた。

平成 29 年度の入館者数は 191,817 人（前年度：184,243 人）であり、ここ 10 年間で最も多い入館者数となった。特に夏休み期間である 8 月の入館者数は 4 万人を超え、前年度と比べ 4 千人増となった。

要因としては、企画展の実施（夏は南極展）、平成 28 年度のプラネタリウムオーバーホール期間の減少幅の回復、星空コンサートなど新規イベントの定着化などが考えられる。

表 - 1 入館者数 (単位:人)

年度/月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
29	41,395	77,052	40,095	33,275	191,817
28	41,676	73,489	36,350	32,728	184,243
年度増減	△281	3,563	3,745	547	7,574

表 - 2 プラネタリウム入場者数 (単位:人)

年度/月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計/平均
29	27,609	50,994	24,376	21,973	124,952
入館者比 (%)	67%	66%	61%	66%	65%
28	26,070	48,096	19,216	19,803	113,185
入館者比 (%)	63%	65%	53%	61%	61%

表 - 3 団体利用者数 (単位:人)

年度/月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
29	7,654	9,846	11,854	3,984	33,337
28	7,615	11,193	10,077	5,607	34,492
年度増減	39	△1,347	1,777	△1,623	△1,155

## (1) 展示【公益1】

展示事業は、あらゆる世代の来館者が科学技術に触れることのできる機会創出に努め、コミュニケーターやボランティアインストラクターを展示場に配置することにより、来館者、研究者等とのマルチ方向の科学技術コミュニケーションの場を提供した。

財団中長期計画における各展示場の展示更新については、計画策定に向けた基礎資料とする1階展示場・2階展示場・屋外展示場の全展示物の評価を実施し、現状の課題、要望等をまとめて「展示構想案(たたき台)」を作成した。これを基に外部機関との意見交換を行い、展示計画の作成に向けて具体化を進める。

### ①1階展示場および屋外展示場【公益1】

1階展示場および屋外展示場は、誰もが科学技術を体験し、不思議さを実感できる「科学技術のエントランス機能」が果たせるよう展示運営に努めた。加えて、老朽化により故障頻度が高い展示について更新作業を行い、エネルギーゾーンの原子力コーナーにおいては一部展示の更新を行った。

また、センターのPRと情報発信の強化を図るため、正面入口に屋外デジタルサイネージ(電子掲示板)を設置し、プラネタリウム上映番組やイベント情

報等のPR映像を放映して魅力の向上に努めた。

その他、南極OB会茨城支部と連携して南極専用小型雪上車の修復作業を進め、夏季企画展「南極展～昭和基地開設から60年～」の開催期間中に雪上車を運転するデモンストレーションを行い、動態展示として特別公開した。

## ②2階展示場【公益1】

2階展示場においては、「つくば」等の活動が可視化できる展開のひとつとして、筑波大学等との連携により、地球環境ゾーンに藻類バイオマスエネルギーの実用化プロジェクトを紹介する体験展示物を追加した。

また、常設展示と催事事業の連動した展開として、筑波大学の「南極10m級テラヘルツ望遠鏡計画模型(1/20)」を夏季企画展でも活用し、計画の紹介を行った。

## (2) 催事【公益1】

催事事業は、幅広い世代の来館者が科学技術をより身近に感じ、興味関心を抱き、理解の発展となる機能を意識して企画実施した。

### ①一般催事【公益1】

一般催事は、誰でも気軽に参加でき、自然現象や生活を支える科学技術を実感できるサイエンスショーや科学教室等を毎週末に開催した。加えて、研究者等から活きた科学技術活動の話が直接聞ける機会の試行として、夏季企画展と連動した元南極観測隊員による解説「南極トーク」等を実施した。

#### a. サイエンスショー

いつでも科学技術に触れられる機会として、身のまわりにある科学現象をはじめ、常設展示に関連した科学の原理や技術等をショー形式で楽しく演出し、実験や実演を通して幅広い年代層にわかりやすく解説した。

また、9月からは実演回数をさらに増やし、来館者が参加観覧できる機会の充実を図った。(12テーマ/192回)

〈テーマ一覧〉

4月	音
5月	シャボン玉
6月	身近な気体
7月	超低温の世界
8月	深海の世界
9月	ドライアイス

10月	飛ぶ
11月	大気圧
12月	光の七変化
1月	色イロな水
2月	静電気
3月	空気砲

#### b. 科学教室

科学に関連する原理や仕組みについて、気軽に参加して理解を深めるとともに、ものづくり体験を通して自ら工夫する創造や技術の重要性を学ぶ機会となることを意識して工作教室を実施した。(18テーマ/134回)

<テーマ一覧>

春休み	ミニ空気砲
4月	風船ロケット
ゴールデンウィーク	竹とんぼ/光るキーホルダー
5月	UVチェックストラップ
6月	風船スライム
7月	バランストンボ
夏休み	スカイスクリュー/CDゴマ 光るスライム/ビーズの万華鏡
9月	風船ホバークラフト
10月	ブーメラン
11月	さかさま水コップ
12月	アロマキャンドル
1月	ぐにゃぐにゃ凧
2月	手作り my カイロ
3月	ゴム動力飛行機
春休み	ミニ空気砲

#### c. 科学入門講座

科学入門講座は、ボランティアインストラクターが企画・準備・実施する活動として、科学技術をテーマにさらに踏み込んだ内容や詳しく学びたいという要望に応えることを意識して実施した。(10テーマ/10回)

<テーマ一覧>

4月	水ロケット
9月	お散歩犬工作
10月	エキスポセンターのH2 ロケットの高さを測ろう
11月	紙飛行機の工作
12月	ピーナッツオイルのひみつ/ピーナッツオイルキャンドルをつくろう
	クリスマスかざぐるまを作ろう
2月	ラジオ工作
	へんな万華鏡工作
3月	「πの日」特別講座
	電気分解で絵や文字を描いてみよう

d. 南極トーク（サイエンストーク）

夏季企画展の関連イベントと連動して、開催期間中の毎週末、研究者や技術者等から直接話を聞くことができる機会として試行実施した。

<テーマ一覧>

7月22日（土）	南極観測隊の仕事
7月23日（日）	南極の天気
7月29日（土）	南極地域での野外活動 ～セールロンダーネ山地地学調査隊～
7月30日（日）	ドームふじ基地ってどんなところ？
8月5日（土）	南極の地図作り
8月11日（金祝）	オーロラのしくみ
8月12日（土）	南極の鳥
8月20日（日）	雪上車整備について
8月26日（土）	凍りながら大きくなる！南極酵母がつくる霜柱
8月27日（日）	南極観測隊の歴史
9月2日（土）	ぼくら南極・えんの下の力持ち

e. 季節イベント

センターにおける季節感を演出したイベントとして、「七夕の星空に願いをかけよう！～楽しい七夕飾りづくり～」や「クリスマス特別企画エンタランスコンサート」等を開催した。



## ②特別催事【公益1】

### a. 企画展

企画展は、話題性、新規性、意外性を踏まえた視点から科学技術の役割を紹介することを念頭に、企画段階から関係機関等の参画を得て実施した。また、平成29年度からは実施回数を増やして、新たな来館者層の開拓、さらなる来館促進に繋がる取り組みとしての役割も意識した。

加えて、主に企画展会場として活用している「多目的ホール」の床タイル及び壁面の改装、2階展示場前廊下へのライティングレールの設置による環境整備工事を行い、企画展の魅力向上に取り組んだ。

#### 1) 春季企画展「3次元のかたち～作る技術、感じる技術～」

テーマ：立体化の技術

期間：平成29年3月25日（土）～6月11日（日）

企画：筑波大学三谷純教授（監修）、岩田洋夫教授（協力）

協力：国土交通省国土地理院、産業技術総合研究所 他9機関

後援：内閣府、文部科学省、筑波大学、つくば市教育委員会

関連イベント：

- 未来の医療を体験!3次元手術シミュレーションのいろいろ
- 講演会「さわれるVR～最先端の触力覚技術」
- ワークショップ「ふしぎな立体折り紙を折ってみよう」
- 飛び出すおりがみ遊具「ダンダンダーン」で宇宙基地をつくろう
- 講演会「VRはどこから来てどこへ行くか」
- 建築構造模型「RES」に入ってみよう

#### 2) 夏季企画展「南極展～昭和基地開設から60年～」

テーマ：南極における研究と生活

期間：平成29年7月21日（金）～9月3日（日）

協力：国立極地研究所、(株)大原鉄工所 他9機関

後援：南極OB会茨城支部、つくば市、つくば市教育委員会

関連イベント：

- 南極トーク
- 南極クラス
- 南極雪上車特別公開（デモンストレーション走行）
- 第36回ミーツ・ザ・サイエンス  
「南極の今!～つくばに戻った隊員たち語る～」

- 3) 冬季企画展「ドッキリ!?わくわく♪ふしぎな体験 - 感覚展 - 」  
 テーマ：脳科学と感覚  
 期 間：平成 29 年 12 月 9 日（土）～平成 30 年 2 月 12 日（月祝）  
 協 力：高砂香料工業（株）、筑波技術大学、物質・材料研究機構  
 後 援：つくば市教育委員会  
 関連イベント：  
 ○「触って観る」アートカードを作ろう！
- 4) ミニ企画展「あれモ!これモ!藻でできる」  
 テーマ：藻類バイオマスエネルギーの研究開発  
 期 間：平成 29 年 4 月 22 日（土）～6 月 30 日（金）  
 協 力：筑波大学藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター
- 5) ミニ企画展「チョコっとサイエンス」  
 テーマ：チョコレートの科学  
 期 間：平成 29 年 11 月 18 日（土）～平成 30 年 3 月 18 日（日）  
 協 力：東京フード（株）、高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学  
 研究所、国立科学博物館 筑波実験植物園  
 後 援：日本チョコレート・ココア協会  
 関連イベント：  
 ○解説ツアー&テイスティング（毎週日曜日）  
 ○第 38 回ミーツ・ザ・サイエンス「チョコレート・サイエンス」  
 ○chocosil（チョコシル）

b. ミーツ・ザ・サイエンス

日常的に未来社会の姿を実現しようとしている研究者や専門家から直接話を聞き、活きた科学技術に触れ、実感し、活動を理解する場となることを目的に幅広い観点からのテーマや展開でイベントを実施した。

また、企画にあたっては研究者や研究機関側から定例的な開催要望があるテーマもあり定着してきている。

<テーマ一覧>

8 月 19 日（土）	第 36 回「南極の今！～つくばに戻った隊員たち語る～」 講師：松元誠（気象庁） 林健太郎（農業環境変動研究センター） ※夏季企画展関連イベントとして実施
-------------	--

10月9日(月祝)	第37回 スポーツと科学技術のコラボイベント 「サイエンス×サッカー教室」 講師：浅井武(筑波大学)、阿部吉朗(Blosson(株)) 協力：筑波大学、Blosson(株) 他
2月10日(土)	第38回「チョコレート・サイエンス」 講師：宇佐美徳子(高エネルギー加速器研究機構) 共催：KEK 物質構造科学研究所 協力：(株)東京フード ※ミニ企画展関連イベントとして実施
3月21日(水祝)	第39回 スポーツと科学技術のコラボイベント 「サイエンス×サッカー教室」 講師：浅井武(筑波大学)、阿部吉朗(Blosson(株)) 協力：筑波大学、Blosson(株) 他

#### c. 科学技術トピックス

現在進行形の最新研究や旬な話題の科学技術情報を提供する企画として、紫外線と健康の関係を紹介した国立環境研究所の「日光は自然のサプリメント」を5月13日(土)から9月3日(日)まで行った。また、日本初の地質年代名として期待され、話題となっている「チバニアン」紹介展示を行った。(継続展示中)

#### d. その他の主催・共催イベント

5月20日(土)	「国際植物の日」関連行事 ・宇宙アサガオの種の配布 ・顕微鏡で植物を観察しよう ・体験教室「あつまれ!未来の研究者たち」 共催 筑波大学
7月1日(土)	全国同時七夕講演会 「夜空のムコウーいちばんとおい夢ー」 共催 高エネルギー加速器研究機構
7月15日(土) ~17日(月祝)	コミュニケーション3Dシアター「ジオ・ミライ号」 協力 原子力発電環境整備機構
7月31日(月)	「教員のための博物館の日」 共催 国立科学博物館、日本博物館協会 後援 文部科学省、茨城県教育委員会 他

8月20日(日) 21日(月)	第4回全国児童館・科学館・美術館対抗KAPLA大会 つくばエキスポセンターエントリー ※夏休み期間中、体験展示設置
10月14日(土) 15日(日)	体験教室 「エネルギーをかんがえよう ～蛍光ビーズでつくってみよう～」 「でんきをつくってみよう～ソーラーカー作りに挑戦～」 共催 資源エネルギー庁
3月17日(土) 18日(日)	「電子顕微鏡で観察しよう！」 協力 (株) 日立ハイテクノロジーズ

### (3) プラネタリウム及び3Dシアター【公益1】

#### ①プラネタリウム【公益1】

プラネタリウムおよび全天周デジタル投影システムを効果的に活用し、センター独自の「オリジナル番組」を3作品制作した。また、スタッフによる「星空解説番組」は、季節の星空や天文現象等のトピックスを交え、幅広い年代の方がわかり易い内容で解説を行った。

オリジナル番組の制作にあたっては、天文・科学技術に関する情報、最新の研究や成果等、タイムリーでニーズに応えることを意識して制作に取り組んだ。また、あらゆる世代の人がプラネタリウムに親しみ、気軽に体験できる契機となるようにスケジュールに組み込んだ「こども番組」、「特別番組」は、来館者が興味関心を抱きやすいコンテンツを選択して上映した。

その他、平成17年度のリニューアル以来、更新を行っていなかった音響機器類については、経年劣化によるトラブルも頻発していたため、機器の更新を実施し、平成24年設置のデジタル投影システムも製品寿命を迎えつつあり、更新計画策定に着手した。

#### a. 平成29年度上映実績

オリジナル番組	わくわく惑星ツアー～太陽系最前線～	平成29年1月14日(土) ～5月28日(日)
	巨大隕石衝突	平成29年6月3日(土) ～9月3日(日)
	日本、星ばなし	平成29年9月9日(土) ～平成30年1月8日(月祝)
	ハロー、ジュピター～木星、新たなる冒険の旅～	平成30年1月13日(土) ～5月27日(日)

星空生解説	見上げてみよう！今日の星空ー春ー	平成29年3月1日（水） ～5月28日（日）
	見上げてみよう！今日の星空ー夏ー	平成29年6月3日（土） ～9月3日（日）
	見上げてみよう！今日の星空ー秋ー	平成29年9月9日（土） ～11月30日（木）
	見上げてみよう！今日の星空ー冬ー	平成29年12月1日（金） ～平成30年2月28日（水）
こども番組	妖怪ウォッチ プラネタリウムは星と妖怪がいっぱい！	平成28年6月25日（土） ～平成29年4月23日（日）
	ドラえもん 宇宙ふしぎ大探検3	平成29年4月29日（土祝） ～10月29日（日）
	ポケットモンスター サン&ムーン プラネタリウム	平成29年11月3日（金祝） ～平成30年10月28日（日）
特別番組	Feel the Earth ～Music by 葉加瀬太郎～	平成29年3月25日（土） ～平成30年3月24日（土）
	ゴッホが描いた星空	平成30年3月25日（日） ～平成30年度も継続上映
学習番組	小中学校からの要望に基づき、「夏・冬の星座と大三角」「月の満ち欠け」をテーマに適宜実施。	

b. プラネタリウム施設におけるバリアフリーに向けた取り組み

あらゆる人がプラネタリウムを体験できる取り組みとして、オリジナル番組の字幕（日本語）、副音声（日本語、英語）、補聴援助機器（磁気誘導ループ）によるサービスの提供を行った。

英語版副音声の作成にあたっては、地域のインターナショナルスクールや外国人ボランティアの協力を得て実施した。

- 英語版上映 : 14回
- 字幕投影 : 117回
- 副音声（イヤホン） : 日本語 306件／英語 415件
- 補聴援助機器（タイループ） : 日本語 16件／英語 1件

c. オリジナル番組の他館上映実績

これまでセンターが制作したオリジナル番組の「ゴッホが描いた星空」や「流れ星のひみつ」等が他の科学館や博物館（5館）で上映され、プラネタリウム運営や星空・天文の普及活動に貢献した。

番組タイトル	上映館	上映期間
ゴッホが描いた星空	東大阪市立児童文化スポーツ ドリーム21	平成28年4月1日(金) ～平成29年4月30日(日)
ゴッホが描いた星空	岐阜市科学館	平成28年9月3日(土) ～平成29年11月27日(月)
流れ星のひみつ	岡山天文博物館	平成28年9月10日(土) ～平成29年9月1日(金)
はじめてのそら	岡山天文博物館	平成29年3月11日(土) ～平成30年3月9日(金)
流れ星のひみつ	さぬきこどもの国	平成28年4月26日(火) ～平成30年4月25日(水)
実験プラネタリウム	佐世保市少年科学館 星きらり	平成29年7月21日(金) ～平成30年7月21日(土)

#### d. 天体観望会

プラネタリウム設備を効果的に活用し、天文学および天体観測の入口的役割になることを意識して、天文や星空、星座に親しみ、興味関心を喚起することを目的にプラネタリウムによる解説を組み込んだ観望会を定期的実施した。(隔月開催/7回)

<テーマ一覧>

5月	木星
7月	土星
8月	夏の大三角
9月	二重星
11月	ペガサスの四辺形
1月	冬のダイヤモンド
3月	プレアデス星団(すばる)

#### e. 星空コンサート

プラネタリウム施設の幅広い活用方法の実践、新しい来館者層の開拓を念頭にプラネタリウムと文化芸術を融合させた企画「星空コンサート」を実施した。事業活動としては、演奏者を中心とするネットワークや口コミなどで早期に予約が満席となるケースが多くなっており、定期的な企画として定着してきている。

<演奏者一覧>

4月21日(金)	樋口雅礼瑤(箏) 長谷川雅樂柚(箏)	82人
----------	-----------------------	-----

5月27日(土)	Happy Dixie Jazz Band (ジャズバンド)	179人
6月24日(土)	Rynco (シンガーソングライター)	181人
7月21日(金)	古寺由希子 (ファゴット) 岡本美喜子 (オーボエ) 田中典子 (ピアノ)	192人
8月25日(金)	樋口景山 (尺八) 岡野京子 (ピアノ)	177人
9月23日(土祝)	脇田優子 (ヴィオラ) 加藤真矢子 (ピアノ)	215人
10月20日(金)	KOSMOS (チェロ、ピアノ)	168人
11月25日(土)	結束寛子 (クラリネット) 塩山志保 (チェロ) 道下果奈 (ピアノ)	201人
12月23日(土祝)	高濑妙子 (サクソ) 鈴木さくら (ピアノ)	185人
1月26日(金)	安保美希 (ピアノ)	99人
2月24日(土)	新美光映 (ピアノ) 保戸田かさね (マリンバ)	176人
3月30日(金)	Deborah Grow (声楽) 岡田敏恵 (ピアノ) 岡田零 (フルート)	183人

#### f. プラネタリウムイベント

オリジナル番組の関連イベントとして、監修者による講演会やプラネタリウムで話題となっている解説者や劇団を招いた特別企画を実施した。

- 講演会「よくわかる!太陽系最新ニュース」4月16日(日)
- 「星のお兄さん!?爆笑プラネタリウムショー」4月23日(日)
- 雑貨団シアトリカル・プラネタリウム「きみとモンスター」10月29日(日)

#### ②3Dシアター【公益1】

3Dシアターは、現実には経験できない空間を仮想的に実現することを通して、自然現象や科学技術の展開を体験するものとして幅広い視聴要請に対応できるよう機能拡張と場所を1階へ移設を行った。

運用にあたっては、宇宙開発をテーマにした「スペースツアー」等6作品を上映し、機能拡張と場所的な改善効果も加わって、観覧者数も36,489人となり大幅に増加した。(前年度:19,349人)また、特徴ある番組制作を実施する

ために関係機関等との意見交換を行い、学校団体向けに学習指導要領も踏まえ、「自然」と「昆虫」をテーマにした新コンテンツを制作した。

#### (4) ミュージアムショップ【収益1】

科学館の中のミュージアムショップとしてのあり方を再認・意識し、来館者が科学館に求める商品の提供に心がけ、つくばエキスポセンターの活動（企画展やプラネタリウム番組等）に関連した時節を得た売り場づくりを念頭に置き、ミュージアムショップの運営を行った。

また、オリジナルグッズとして、センターのキャラクターである「テクノ筑丸」や現在も根強い人気のある科学万博のマスコットキャラクター「コスモ星丸」などを使用した文房具やお菓子等を製作し、販売の促進を図った。

#### (5) その他【公益1・収益1】

##### ①学会・協議会等活動への参加・協力【公益1】

「全国科学館連携協議会」、「日本プラネタリウム協議会」等の活動に職員を参加させて、知見等の資質向上を図った。

##### a. 科学館・博物館関係

- 1) 経済産業省資源エネルギー庁からの委託により一般社団法人日本原子力文化財団が実施している科学館等職員向け研修会に職員を参加させて資質の向上を図った。
- 2) 全国科学館連携協議会の海外科学館視察研修（平成30年1月、ドイツ、オーストリア）に職員を参加させて資質の向上を図った。
- 3) 第25回日立サイエンスショーフェスティバルに職員を参加させて資質の向上を図った。
- 4) 全国科学博物館協議会平成29年度第2回総会及び研究発表大会へ参加し、情報交換等を行った。
- 5) 日本藻類学会の学会誌「藻類」（平成30年3月発行号）にミニ企画展「あれモ!これモ!藻でできる」の活動報告を寄稿した。

##### b. プラネタリウム関係

- 1) 日本プラネタリウム協議会の全国プラネタリウム大会・広島2017（平成29年6月）において、「プラネタリウムを通じた地域連携



及びバリアフリーの精力的な取り組み」というテーマで、センターが実施している地域連携及びバリアフリーに関する取り組みについて口頭発表を行った。

- 2) 国際プラネタリウム協会の「IPS 2018 Conference Planetarium Live!」(平成 30 年 7 月、フランス/トゥールーズ) へ「プラネタリウムにおける先進的なアプローチと連携協力」というテーマで応募し受理された。

## ②その他【収益 1】

センターの利用促進及びサービスの充実と向上を目的に、外部事業者へのカフェの運営の委託を継続するとともに、カフェの名称をより地域や来館者に定着しているセンターのキャラクター「コスモ星丸」を冠した「ほしまる☆カフェ」とした。

また、駐車場は、来館者や地域に向けたサービスの一環として、平日は無料開放をし、気軽に足を運べるよう配慮、土・日・祝日及び春・夏休み等の繁忙期は廉価での運営を行った。

その他、財団の事業目的に沿った施設等の貸与・貸付を行った。

## 2. 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進、科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進に関する事業

### 【公益 2・収益 2】

センターにおける科学技術の普及啓発活動を推進することを念頭に、県内教育委員会(約 20 か所)を訪問し、事業紹介及び連携事業の提案を行った。また、地域の教育機関と連携して「つくば市教育研究会理科教育研究部・理科主任研修会」の開催に協力し、センター活動を紹介した。

その他、地元つくばインターナショナルスクール(TIS)と地域連携および教育活動の向上を図ることを目的とした相互に協力する覚書を平成 29 年 10 月に締結した。

### (1) 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進【公益 2】

- ①科学技術週間における筑波研究学園都市研究施設一般公開に対する支援をはじめとする施設割引や展示・催事等の実施【公益 2】

科学技術週間において、「一日館長」イベントの実施、期間中のセンター入館料割引を行うとともに、研究施設一般公開に対する支援を行った。また、今後の効率的な展開を狙い、巡回バスに関する提案をした。

②科学技術を通じた地域コミュニケーションの創造のための事業【公益2】

「平成30年度みらいの科学技術振興事業」（つくばリンク事業）への募集活動を行い、4件の応募から地域コミュニケーションの創造に関わる事業として1件の助成を決定した。

③全国ジュニア発明展【公益2】

「第19回全国ジュニア発明展」の募集にあたって、募集要項の配布先の拡大を行い、その結果9,693作品の応募があり、前年度と比較して506作品増加した。これに伴い、審査方法を見直して審査員への負担軽減を図った。

11月18日（土）の表彰式では、最優秀作品（2作品）に、文部科学大臣賞を授与した。なお、審査結果の入賞数は39作品（小学生部門20作品、中学生部門19作品）であった。

実行委員会において、これまでの応募状況と入賞状況から次年度の応募方法の見直しと協議を行い、テーマを特定して募集することとした。また、事業活動と成果を全国的に周知する取り組みとして、他の科学館・博物館等（3館）での入選作品の展示会を実施した。

④科学技術の普及啓発及び人材育成を促進する事業の共催支援・協力【公益2】

科学技術に関する映像作品を通して、科学技術への理解増進や関心の一層の拡大を目指し、日本科学技術振興財団等との共催で「第59回科学技術映像祭」を実施した。また、科学技術映像祭の成果発表や活動の周知として、入賞作品上映会をセンターの2階展示場で行った。

その他、下記事業について共催、後援を行った。

- 第10回日本地学オリンピック大会
- つくばチャレンジ2017（移動ロボット自律走行技術チャレンジ）
- 第18回全国中学生創造ものづくり教育フェア
- 第7回科学の甲子園茨城県大会
- 第61回茨城県科学研究作品展県南地区展
- 平成29年度「宇宙の日」記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト
- 科学体験キャンプ in いわき 2017

⑤おとなのためのサイエンス講座【公益2】

あらゆる人が科学技術をテーマに集い、対話し、理解する機会を提供する取り組みのひとつとして、大人が気軽に科学技術について学び、関心を深める場となる「おとなのためのサイエンス講座」を実施した。また、講座の運営については、関係機関の協力も得て円滑に進めた。（16講座／受講者183人）

#### ⑥アウトリーチ活動【公益2】

ボランティアインストラクターの参画を得て、幼稚園、学校、公民館等に対して移動プラネタリウムをはじめとする科学出前教室、サイエンスショー、科学工作教室、実験機器貸出等を実施した。

実績としては、前年度を上回り、128件、12,533人の受講者が参加した。(前年度：116件、11,489人) 活動としては、県内教育委員会へ本活動の紹介も継続して実施している中、県外遠方からの申し込みも増え、受講者数増に繋がってきている。今後は、受け入れ体制も含め、新しいメニューの開発、対象の開拓を行い、実施内容に改善を加え、事業を継続維持していく。

#### ⑦科学館連携事業【公益2】

科学館・博物館の運営や活動の支援として実施している巡回展や展示ソフト等の貸し出しをぐんまこどもの国児童会館他1館(「エネルギー展示物」と、日本アイソトープ協会武見記念館(「科学技術の『美』パネル展」CD-ROM、「切手で見える世界の科学技術の発展」CD-ROM)に行った。今後の事業継続と実施にあたって、展示物の老朽化や経費負担の検討が必要となっている。

#### ⑧学芸員の教育支援・職場体験、企業実習の受け入れ【公益2】

学芸員養成課程の博物館実習生(4名)を受け入れた。また、職場体験等の実施については、他県からの受入申請も含め、中学校(4校10名)からあったほか、専門学校からの実習生(2名)、大学からの実習生(3名)を受け入れた。実習生による課題発表も充実し、終了後、派遣元からも本実習へ良い評価を頂いた。

#### ⑨つくばインターナショナルスクール(TIS)との協力覚書締結

平成29年10月27日(金)に地域連携及び教育活動の向上を図ることを目的として、相互に協力する覚書を締結した。これにより、TISは国際バカロレア課程に必要な社会活動として、生徒たちがプラネタリウム番組制作や英語版用吹替、センター内の案内資料の英語化などに参画することとし、相互に有効な活動が展開できるようになった。

### (2) 科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進【公益2・収益2】

#### ①助成支援【公益2】

「平成30年度みらいの科学技術振興事業」(つくばリンク事業)への募集活動を行い、4件の応募から国際交流推進事業として1件に対する助成を決

定した。(助成支援としては、地域コミュニケーションの創造に関わるもの  
含め計2件)また、つくばサイエンス・アカデミーへの協力として、以下の  
事業へ共催、後援を行った。

○SAT テクノロジー・ショーケース 2018

○SAT フォーラム 2017

○第12回つくばスタイル交流会

## ②つくばサイエンスニュースによる情報発信【公益2】

筑波研究学園都市にある産・学・官の研究機関が発表した科学技術関連ニ  
ュースをわかり易く伝えるWeb版「サイエンスニュース」による情報発信を  
行った。また、さらなる閲覧数の増加を図るため、トップページに「よく読  
まれている記事」と「イベントお知らせ」欄を追加し、小学生から中学生を  
対象としたコラム記事「わかる科学」については、センターホームページの  
「トピックス&お知らせ」からも更新を周知した。

平成29年度のトピックス掲載記事数は323件、月2回更新するコラムは  
49本掲載した。結果としてページ閲覧数は前年度の73,910件を上回り、平  
成29年度は88,065件となった。

## ③研究者語学研修を通じた研究者交流【収益2】

筑波研究学園都市内の研究者、教育者、支援スタッフ等の英語力向上と研修  
の場を活用した人的交流の推進を目的として、文部科学省研究交流センターと  
共催して英語研修を実施した。受講者数は27機関から349名(前年度:26機  
関、353名)が参加しており、受講料、クラス編成を見直し、受講者数は減っ  
ているが収入は増加した。今後も応募状況とも照らし合わせながら、クラス編成  
を検討する必要がある。

## 3. 科学技術関係団体等に関する事業【他1】

「科学技術団体連合」及び「牧友会」の事務局業務を行ったが、平成30年4  
月から本事業を別法人が取り扱うことに伴い、3月末日付けをもって当分の間休  
止することとし、当該事務局業務のために設けていた東京分室を閉鎖した。

## 4. 情報発信・広報活動

### (1) 情報発信(情報公開)

「平成28年度事業報告書及び計算書類等」「平成29年度事業計画書及び収  
支予算書等」を財団ウェブサイトで公開した。

## (2) 広報活動

センターの運営を中心に財団の事業活動について広く広報するため、筑波研究学園都市記者会を通じて、報道関係機関等に資料配布を行った。(16件) また、プラネタリウムや企画展等の活動については試写会・内覧会を開催し、新聞やTV等のメディア取材に適宜対応した。(取材件数196件)

その他、センター活動の各種媒体への広告掲載、自治体等と連携した観光キャンペーン等への参画、ホームページによる各種事業及びセンターの活動に関する情報の発信を行った。

新たな試みとしては、旅行情報電子雑誌を活用した情報発信に加え、SNSに関しても検討を進め、次年度試行できるよう準備した。加えて、センターの魅力をPRするショートムービーを制作し、センターホームページへの動画掲載や屋外デジタルサイネージ(電子掲示板)での放映を開始した。

財団ホームページのページ閲覧数は、前年度比1,673件減の43,668件(前年度:45,341件)、センターホームページのページ閲覧数は、前年度比106,512件増の1,984,704件(前年度:1,878,192件)であった。センターのページ閲覧数については、平成25年度の1,421,530件から毎年10万件以上の増加となっており、今後も更なるホームページの充実が必要となっている。

## II. 財団運営に関する総合的な活動に関すること

### 1. 代表理事・業務執行理事及び理事会・評議員会

代表理事及び業務執行理事の執行体制で財団経営を担い、業務を適切に執行した。理事会・評議員会については、定款等で定められている通り以下の通り運営した。

#### (1) 理事会

(開催日)		議題
平成29年4月30日(日)	第21回 理事会(書面決議)	<決議事項> ・第13回臨時評議員会の招集について
平成29年5月11日(木)	第22回 理事会(臨時)	<報告事項> ・第13回臨時評議員会における役員選任結果について <決議事項> ・代表理事・理事長の選定について(案) ・重要な使用人(つくばエキスポセンター館長)の選任(案)について

		<p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員への第22回臨時理事会決議事項の結果のお知らせ</li> </ul>
平成29年6月8日(木)	第23回 理事会(通常)	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度事業報告書(案)について</li> <li>・平成28年度決算報告書(案)について</li> <li>・第14回定時評議員会の招集について(案)</li> </ul> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長職務執行状況報告</li> <li>・専務理事職務執行状況報告</li> <li>・基金運用状況について</li> </ul>
平成29年11月30日(木)	第24回 理事会(臨時)	<p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長職務執行状況報告</li> <li>・専務理事職務執行状況報告</li> <li>・基金運用状況と見通しについて</li> <li>・財団中長期計画の進め方と具体的展開</li> </ul>
平成30年3月7日(水)	第25回 理事会(通常)	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度事業計画書(案)について</li> <li>・平成30年度収支予算書(案)、資金調達及び設備投資の見込み(案)について</li> <li>・平成30年度基本財産基金の運用方針について(運用計画)(案)</li> <li>・その他の事業(科学技術関係団体に関する事業)の休止について(案)</li> <li>・第15回臨時評議員会の招集について(案)</li> </ul> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長職務執行状況報告</li> <li>・専務理事職務執行状況報告</li> </ul>

## (2) 評議員会

(開催日)		議題
平成29年5月10日(水)	第13回 評議員会(臨時)	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事の選任(案)について</li> </ul>
平成29年6月23日(金)	第14回 評議員会(定時)	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度決算報告書(案)について</li> <li>・理事の選任(案)について</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員の選任(案)について</li> </ul> <報告事項> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度事業報告書について</li> <li>・第22回臨時理事会決議事項について</li> <li>・第23回通常理事会決議事項について</li> <li>・基金運用状況について</li> </ul>
平成30年3月20日(火)	第15回 評議員会(臨時)	<決議事項> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事の選任(方法)について(案)</li> </ul> <報告事項> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回通常理事会決議事項について</li> <li>・平成30年度事業計画書について</li> <li>・平成30年度収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みについて</li> <li>・平成30年度基本財産基金の運用方針について(運用計画)</li> <li>・その他の事業(科学技術関係団体に関する事業)の休止について</li> </ul> <その他> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財団の活動状況について</li> </ul>

## 2. 監事監査

理事の業務執行及び事業報告、計算書類等の監事監査を行った。  
また、これに資するため外部監査として公認会計士による監査を実施した。

平成29年5月18日(木)～20日(土) 公認会計士による監査  
平成29年6月5日(月) 監事監査

## 3. 基金の運用

### (1) 運用収入

為替が円安傾向で推移したことに加え、債券の期限前償還による約51百万円の収入(受取利息)、満期及び繰上償還による約41百万円の収入(運用益)を計上したことにより、全体で予算を約99百万円上回る収入額となった。

### (2) 再投資

基金運用の方針に基づき、満期及び繰上償還による再投資として、額面19億円(仕組外債8億円、国内債他11億円)分の債券の購入を行った。

	銘 柄	額面	利 率
償 還	第 1 回バンク・オブ・アメリカ・コーポレーション劣後債	2 億円	2.395%
	第 8 回バンク・オブ・アメリカ・コーポレーション債	5 億円	2.305%
	第 1 回メルリンチ・アント・カンパニー・インク劣後債	9 億円	2.610%
	第 12 回エイチエスピー・シー・ファイナンス・コーポレーション債	3 億円	2.540%
	オランダ 治水金融公庫債 (豪)	5 億円	6.100%(変動)
購 入	第 6 回東京電力パワーグリッド債	1 億円	0.850%
	第 16 回三菱 UFJ フィナンシャル・グループ 劣後債	1 億円	当初 5 年 0.440% 以降変動
	第 8 回東京電力パワーグリッド債	3 億円	0.810%
	第 1 回ハンファ・ケミカル債	3 億円	0.720%
	第 10 回東京電力パワーグリッド債	2 億円	0.450%
	第 11 回東京電力パワーグリッド債	1 億円	0.790%
	三菱 UFJ 証券ホールディングス PRDC 債 (米)	5 億円	当初 1 年 2.700% 以降変動
	ゴールドマン・サックス・ファイナンス・コーポ・インターナショナル PRDC 債 (米)	3 億円	当初 1 年 3.340% 以降変動

### (3) その他

財団を取り巻く流動的な金融情勢等を踏まえ、定期的(3ヶ月に1回程度)に基金運用アドバイザーと再投資等に関する意見交換を行った。

## 4. 施設・設備【公益1】

センター来館者の安全性や快適性を確保するため、計画的に施設・設備等の整備を実施した。(自動ドア修理工事・職員用駐車場の増設工事・駐車場ライン塗装)

また、長期的視野に立ち施設全体の魅力向上に取り組むため、建物全体の老朽化や不具合等の調査を実施したところ、基本構造体には問題はみられなかったが、雨漏り箇所等についての指摘があり、平成 29 年度はひび割れが著



しい一部外壁の修繕工事を行った。

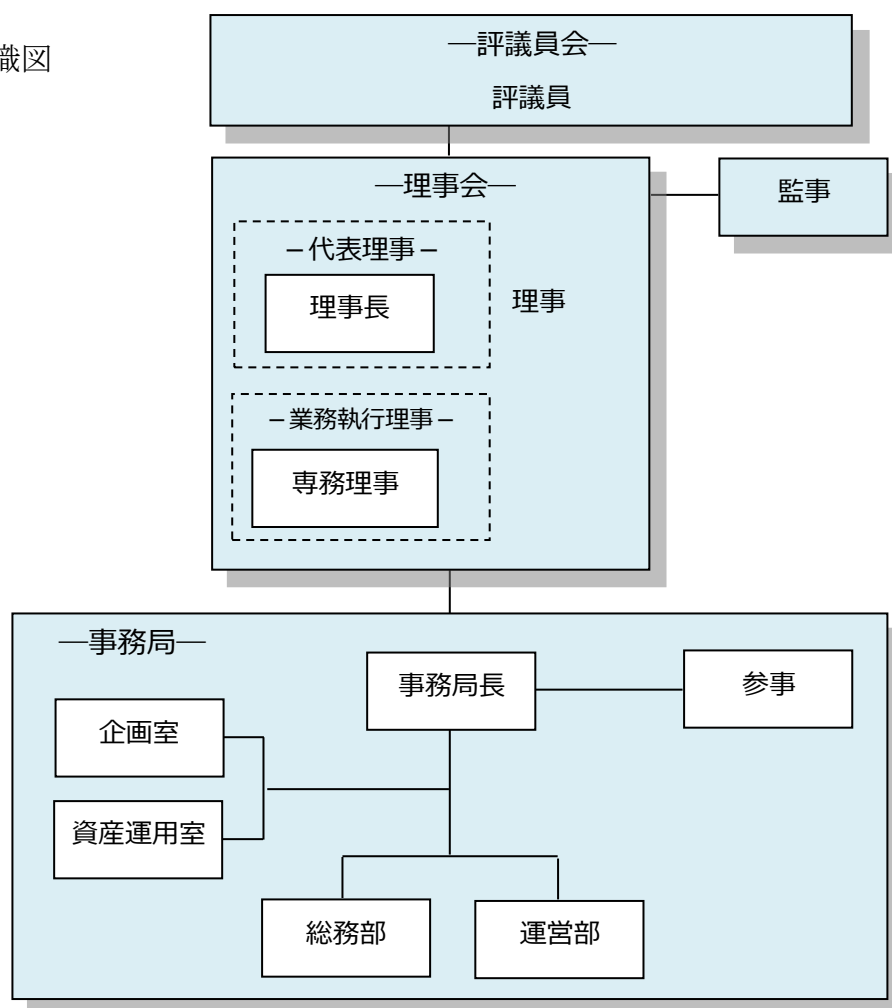
その他、設備の点検基準の改正に伴う点検義務付けのあったハロゲン化物消火設備修繕工事を実施した。

## 5. 業務執行体制

公益財団法人の代表理事として理事長、業務執行理事として専務理事を、事務局に総務部、運営部、企画室、資産運用室を置き業務を行った。

また、財団業務を担う人材の確保、多様化する業務への柔軟な対応、職員の能力、専門性をより発揮しやすい環境の醸成に取り組むため、職員就業規程・職員給与規程を改正し、効率的かつ効果的な事業運営を行った。

組織図



平成 30 年 3 月 31 日時点

## 6. その他

法定点検が義務付けられている消防用設備等点検および防火対象物点検（9月、3月）を実施し、適切に届出を行った。加えて、消防計画に基づき、消防訓練（7月、3月）を2回行った。

### 事業報告書の附属明細書について

平成 29 年度事業報告については事業報告書に記載のとおりであり、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。